

## II-2-6

## 漁業文化と観光漁業の関係

## - 中国舟山漁業文化の事例分析 -

上海海洋大学（中国・機構学术交流協定締結機関）

韓 興勇

## はじめに

近年、中国では観光漁業が盛んに展開しており、漁業文化に関する調査や整理が行なわれている。中国の沿岸各地域では、漁業文化や漁村の歴史、海民の民俗など海洋文化を利用して漁業観光の振興に努めている。特に中国における著名な漁業地域である舟山列島は、漁業文化の歴史も長く、資源も豊富であり、観光漁業を経営することによって発展し、地域漁業経済をさらに発展させている。

今回発表の内容について、中国舟山列島における漁業文化の例をあげ、舟山列島の古い漁村の歴史、漁民の歌、漁民の絵、漁民のダニ踊り、漁船の飾り、舟山鼓など漁業文化を調査し、資料の整理を行なう。その上で、漁業文化の利用と観光漁業の関係を分析し、漁業文化の展開が漁業経済にどのような影響を与えているか、そしてどのような漁業文化が漁業観光の内容として利用されているのかを究明する。

## 1 舟山列島観光漁業の発展と漁業文化の関係

舟山列島は、上海の東に位置する中国第一の群島であり、有数な海洋漁場である。舟山列島は、行政区域は舟山市になっており、歴史からみると、舟山列島の経済は漁業が産業の中心であった。また、舟山列島の海島自然景色も美しく、民俗や民風も特有な伝統をもっているが、これは長期の漁業生産、漁業生活によって形成された海洋文化である。このような海洋人文資源は舟山列島観光漁業の展開への基礎になる。

1988年まで、漁業経済は自然からの捕獲漁業を主とする産業であった。その後、漁業資源の問題で、水産品の加工業や観光漁業が発展し、特に自然資源の利用を減少させるため、人文資源を利用する観光漁業の展開がより重要となった。観光漁業の展開には政府や民間が力を入れ、今では観光漁業経済は捕獲漁業を超え、舟山市の大きな産業に発展した。

舟山市の観光漁業発展の当初は、舟山列島に特有な海洋風景と島の海鮮料理が集客の主な観光資源であった。しかし、このような観光資源だけでは中国沿岸部に同様な所が多いので、競争はますます厳しくなり、舟山列島の内部でも同様の競争が厳しくなった。この問題を解決するため、舟山市政府は舟山列島各島の特有な海洋文化を整備し、各島に特有な様々な海洋文化を整理することによって、それぞれの地域で特色ある観光漁業を発展させ、地元の観光漁業を展開している。また、観光客が自然風景と海鮮料理の違いを理解し、海洋文化を実感することによって、更に人

気が高まることが予想される。このようにすることによって、舟山列島の観光漁業はさらに一層発展すると考えられる。

したがって、様々な海洋文化を観光資源として、観光客を招致するため、以前一時的に中断していた漁業祭りなど、漁民の伝統の一部も復活させ、さらに旧来の伝統を新しい方式で表現することで、大変人気を集めている。このような海洋文化の復興に伴う観光漁業という産業の発展が、舟山列島の現実である。海洋文化が産業に結びつき経済を発展させるという政府や民間の認識は、ある面で海洋文化の整理、保存、利用、そして発展に大きく貢献している。

## 2 舟山列島の主な漁業文化資源

### (1) 漁民の唄

従来、舟山列島は漁業が漁民達の主な生活手段であった。機帆船はない時代、捕撈など魚を捕る方法はすべて人力で、集団の力を合わせるが必要だった。魚網を引き上げたり、帆をかけたりする仕事をする時は、力を合わせるため、一人の漁民がまず唄を歌い、皆がこの唄に応じて力を合わせ、魚網を引き上げる。この唄は“号子”といわれる。“号子”の発音は短く、音が大きいので、合わせる力も暴発する。長い年月をかけ、“号子”は、別々の発音になった。魚網を引き上げる時の、特有の“号子”であり、帆をかけるときも特有な“号子”である。したがって、舟山列島漁民の特有の漁民の唄になった。

しかし、機帆船および機械の導入と普及による方式の変化から、“号子”をうたうこともなくなった。現在は、観光漁業の発展のため、漁民の唄を復活させ、昔の捕撈景色を再現し、捕撈も体験できるようにして、観光資源として大きな人気を博している。



写真1 <舟山漁民の歌>から引用 浙江省在線新聞 2007年8月22日

### (2) 漁民のダニ踊り

ダニ踊りは、もともと海島の漁民たちが神を迎える祭りでの踊りであり、豊漁を祈るためのものである。ダニ踊りの姿はダニの跳び姿とよく似ているので、ダニ踊りといわれる。最初はおおよそ清代乾隆年間から舟山列島の定海、沈家門の周辺で流行していった。他に、清代乾隆年間福建省から舟山列島に伝ったという一説もある。したがって、毎年の農曆二十三日に灶神祭りの踊りとなった。“旧を送り新を迎える”踊りであり、また、災害や禍を免れるための祈りの行式における踊りなのである。そして民間ではまた“跳灶会”の別称ともいわれている。舟山列島の方言では“跳灶”の発音と“ダニ”の発音はよく似ている。現在、ダニ踊りは漁民の祭りで踊られるほか、祝日のお祝い表演としても行われ、観光漁業の観賞表演になった。今、ダニ踊りは浙江省非物質文化遺産目録に入った。



写真2 <舟山漁民のダニ踊り>から引用 浙江省在線新聞 2007年8月6日

### (3) 舟山鼓

舟山鼓は舟山列島定海区の漁民が、従来漁船で海へ出る時、鼓を打ち、勇気と度胸を鼓舞するためのものである。また舟山鼓は昔から海で漁船の相互連絡方法としても使われていた。現代のような通信設備がない時代、海での漁船間の連絡は鼓を打ち、異なる音でいろいろなことを表し、お互いに連絡を取りあっていた。長い年月を経て、他の外来文化の影響も受けて、舟山鼓は独特な鼓楽となった。

舟山鼓の内容は、海島生活と漁業生産のことを反映しており、漁民たちの勇気、豪放な性格も表現している。今舟山鼓は観光漁業の観光表演として大きな人気を博しており、政府や民間が観光祭りをを行う時は、舟山鼓はその目玉として必ず表演されている。観光表演のため、舟山鼓は龍舞、獅舞、馬燈、魚燈、ダニ踊りなどと合わせ、鼓楽として演奏され、観光客は漁民の熱気と歓楽の気分を味わうことが出来る。



写真3 <舟山鼓>から引用 舟山数字文化網 2008年10月10日

### (4) 漁民の縄締め

縄締めの技術は、浙江省非物質文化遺産目録に入った。舟山列島の漁業は1200年の歴史を持つ。この長い歴史の中で漁民は、魚の捕撈、造船と修理、日常の生活などにおいて縄を使う仕事が多いので、百種類以上の縄締め方法があった。しかし、現代漁業の生産技術の導入によって縄締めを要する仕事も段々と無くなりつつあり、縄締めの方法を知る人も少なくなった。

観光漁業の展開によって、漁民は再び縄締めを復活させ、観光用お土産品として開発し、観光客に販売している。現在、縄締めはいろいろな形で表現され、新しい意味を含み始めている。例えば五星磨盆締めは若い女性の髪締めに似ているが、これは綺麗な若々しい気分を感じさせる。夫婦並頭締めは二つ縄で対接して締頭を並ぶが、これは家庭平和幸福の意味がある。また、観光

客は縄締めの方法を学ぶこともできる。今日では、家庭平和幸福の祈りの意味で、漁民の縄締めは飾りとして家庭にかけられる人が多い。

#### (5) 漁船の飾り

舟山列島の漁船飾りは、海洋文化の代表であり、漁民たちの長い生産生活で創造された生活文化である。海洋漁業は非常に危険な仕事だが、海で生産生活している漁民は常に単調な生活を送っている。この為、精神面の安定と楽しめる生活を求め、漁船の船首、船腹、船尾などに飾りをする。漁民が最も好きな漁船飾りは、漁船の頭に大きな魚眼を描くもので、これは素早く魚を発見するという意味がある。漁民たちは太陽が最も鬼や邪魔を追い払うものと考えているので、漁船の魚倉前に海浪と太陽上昇の絵を描くものもある。また、豊漁の祈りなど漁船の飾りはいろいろあるが、漁民たちの豪放で、勇敢、快活な生活性格を反映している。

観光漁業展開以来、漁民は観光漁船により綺麗な飾りを描き、舟山列島の嵎泗漁民は観光釣り船に統一した飾りを描くようになった。観光客は漁港や海でこのような景色を見て感動し、海洋文化を実感するのである。



写真4 <漁船の飾り>から引用 舟山定海旅行指南2009年

#### (6) 漁民の絵

1980年代、舟山市文化管理部門が漁民の文化生活を豊かにするため、漁民に絵画を指導した。最初、1500人の漁民の子弟が参加した。彼らはこれまでに絵を描いたことは無かったが、描き始めると、自分の興味がどんどん膨らんでいった。描く内容は自分の生活に関することや身の回りのこと、あるいは漁民たちの感じたことであった。そして、絵を描くことは漁民たちに広く普及している。絵は漁民たちが描くので、漁民絵画と言われる。漁民の絵は、漁民たち独自の世界観から想像によっていろいろなことが描かれている。漁民の絵は気迫に満ち大胆で、表現が斬新奇抜、想像力が豊かで、色が美しく、自分の理想的生活を追求しようとする感情を表現している。また海に対する深い感情も豊かに表現されている。

1988年、舟山列島の嵎泗は中国文化部から“中国現代民間絵画の郷”の称号を与えられた。2003年、第一回中国舟山漁民の絵画芸術節が開催され、舟山漁民の絵がはじめて舟山列島から全国へ展示された。現在、舟山列島の漁民の絵は舟山海洋文化の代表として国内の芸術界で有名になった。今まで、300点以上の漁民の絵画作品が省と国レベルの展示会に出品され、そのうち154点の作品は省と国の賞を獲得した。また24点の作品は中国美術館や中国芸術館に収蔵されている。外国の友人や客も千点を超える漁民の絵を収蔵している。国内の収蔵点数は数えきれない

と思われる。漁民絵画の鑑賞と収蔵は観光漁業のなかで、大きな人気を呼んでいる。



写真5 <海洋氣息滿々の漁民絵>から引用 人民網2009年12月12日

### (7) 海鮮食文化

舟山の海鮮料理は舟山列島特有の食文化である。舟山列島は東海に位置し、長江の河口と杭州湾の海口にも位置する。そして、餌料が豊富で、いろいろな魚が舟山列島の周辺海域で繁殖する、世界でも有数の海洋漁場である。主な水産品は大黃魚（フウセイ）、小黃魚（キグチ）、帶魚（太刀魚）、鯧魚（マナガツオ）、海鰻（ハモ）、烏賊（イカ）、馬鮫魚（サバ）、渡り蟹などがあり、その水産品は舟山列島の漁民に特有な海鮮料理方法で処理されている。また漁民の食習慣や伝説をベースにした舟山列島の独特の海鮮食文化ができあがった。

中国では“民は食をもって天となす”の意識が強いので、特に沿岸部の人々は海鮮食文化への関心が高く、海鮮食文化のため、観光漁業への旅をする人々が多いのである。

今、舟山列島観光漁業資源として、伝統的な漁業文化を整理し、観光産業に利用するようになったものは、表演用として、漁民の歌、漁民のダニ踊り、舟山鼓などであり、観賞用になったものは、漁民の縄締め、漁船の飾り、漁民の絵画などである。このような漁業文化資源の観光産業への利用は、文化資源活用のひとつのモデルでもある。

## 3 漁業文化から観光漁業への作用

### (1) 観光漁業が舟山経済の新たな成長要因になる

従来、自然捕獲漁業は舟山市の主要な産業であり、舟山市の経済の第一位を占めていた。観光漁業の展開以来、その発展は目覚ましく、2001年には観光漁業の収入は1億人民元に達し、その後、年々著しい成長を遂げている。2008年までに、舟山市には40あまりの観光漁業施設ができたが、漁民の個人経営の宿泊施設や観光店もたくさんある<sup>(1)</sup>。現在、漁村の見学や、海洋伝統と民俗の体験に、また海鮮料理を賞味する為に、舟山列島を訪れる観光客は年々増え、観光漁業が舟山経済の新たな成長要因になった。

舟山市伝統な観光業は普陀山（観音）への拝仏客が多くを占めていたが、観光漁業が展開して以来、観光名所が増えたため、舟山市の観光産業が一層繁栄した。観光客が舟山列島に滞在する日程も長くなり、観光による消費が大幅に増大し、舟山市の経済に大きく貢献している。統計によると、2009年、“中国海洋文化祭り”など観光祭りの開催に伴い、舟山列島への観光客が1680万人に増加し、2008年と比べ11%増加、観光収入は114億人民元に達し、2008年と比べ12%の増

加となった<sup>(2)</sup>。したがって、現在では舟山市の国民総生産額において、観光業の収入はすでに自然捕獲漁業収入を超え、第二位を占めている。

例えば、舟山列島の嵛泗列島は従来は自然捕獲漁業であったが、1999年から観光漁業を含め海洋観光産業の展開以来、漁業民俗文化を海洋観光資源として、漁船観光、漁家料理、漁家表演、漁家民宿などいろいろな観光関連事業がうまれている。観光客は漁民生活の歴史や伝説を知り、漁民の唄や民謡を聞き、漁民絵画の観賞や漁家料理を賞味することができるようになった。また漁期に観光祭りも開催され、現在、嵛泗貝文化祭りは中国で有名な海洋文化祭りとして、人気の観光ツアーになっている。2009年には、嵛泗列島を訪れる観光客は160万人あまり、2008年と比べ17.9%増加、観光収入は10.42億人民元で、2008年と比べ18.1%を増加した<sup>(3)</sup>。地元漁民の話によると、漁業文化の利用が収入につながることで、特に観光漁業が嵛泗列島の主な産業になることは、以前には考えられないことであったという。

## (2) 漁業構造の変化について

舟山列島は従来自然捕獲漁業が第一の産業であり、サービス業、特に文化を資源としたサービス業は少なかった。観光漁業の展開以前、漁民たちは自然捕獲漁業に従事するしかないので、経済収入は自然漁業の状況に左右され、生活は不安定であった。自然捕獲漁業資源の利用を減少させるため、漁民たちの生活は一層不安になり、社会問題にもなってきた。

2000年以降、自然捕獲漁業資源の減少が原因で、舟山列島の10万人の漁民のうち、約2万人の漁民が他の産業に転向しなければならない状況である。しかし、漁民の経験や文化レベルから見ると、他の産業への転向は簡単とは言えない。政府や漁民にとっても頭の痛い問題である。

観光漁業の展開は、漁民が新しい仕事に従事する道を開く。またその仕事は、漁民本来の伝統的な仕事の延長であるため、漁民にとって難しいことではない。漁民たちはこの漁業文化の創造者であるので、漁業文化を利用する観光漁業の経営に必要な基礎を持っているといえる。2009年まで、観光漁業に転向従事する漁民は5000人を超え<sup>(4)</sup>、漁民が他の産業への転業人数の4分の1を占めている。経済収入も年々増えており、これは漁民の就労に有効な解決方法である。観光漁業は飛躍的に発展しており、舟山列島全体の観光業とサービス業の発展も促進している。前述のように、現在舟山列島の観光業収入は自然捕獲漁業の収入を超え、第二位を占めているが、漁業経済の構造も大きく変化し、漁民の経済収入も大幅に増加している。

## 4 漁業文化の発展と展望

中国は長い漁業文化の歴史を持つ国であり、中国の優れた文化のなかでも漁業文化は主要な位置を占めている。七千年前、半坡時代にも魚の図案を土器に描く、魚飾り文化があった。長い漁業の歴史のなかで、豊富な漁業文化を創造してきた。現在、漁業文化を利用した経済発展に伴い、漁業文化が更に活性化されている。漁業文化は漁民たちが創造した文化である。今漁民たち自身の生活向上のために漁業文化を経済に利用することで、文化と経済をともに発展させることができるのである。

また、観光漁業への展開は人々の海洋環境の保護意識も促進する。美しい海は観光漁業にとって重要な資源であるため、漁民は海洋環境の保護をもっと重視しなければならない。観光客も海

洋観光によって、海に対する認識や海洋環境の保護意識が高まる。また、観光漁業は漁業婦人の就労も促進しており、舟山列島の観光漁業では漁業婦人の経営者が多い。漁家料理、漁民表演などの仕事は主に漁婦が従事している。

地方の経済発展と環境保護および漁民就労促進などの現実面から、政府はこの漁業文化の価値を認識しなければならない。そして、漁業文化発展の目的は経済のためであり、客観的にいえば、漁業文化はこのような目的をもった方向で発展していくべきであろう。

現在では、舟山市政府は海洋文化の発掘や整理を十分に重視している。経費の投入も年々増え、観光漁業のため、大きな祭りはすべて政府が行なっている。2011年舟山市の目標は、観光漁業は特徴ある産業整備事業として、重点観光漁業の郷15個を建設し、重点観光漁業の村25個と70個の民宿の建設を予定している。そして、観光漁業の民宿の毎日接待客数は10000人、年に250万の客を接待し、従事員が13000人、直接の経営収入は7億人民元を目指し、舟山列島の観光業を更に促進し、観光収入を年に8%の比率で発展させる計画がある<sup>(5)</sup>。

いうまでもなく、舟山市のような漁業文化資源を観光漁業発展の基礎として、より一層の発展が期待できると考える。

#### 注

- (1) 舟山市人民政府2008年報告、2009年1月
- (2) 舟山市2009年国民経済統計報告、2010年2月
- (3) 崑崙山2009年国民経済統計報告、2010年1月
- (4) 舟山市観光漁業に従事する人数の詳しい統計がないため、この数字は舟山市海洋漁業局の推測である。
- (5) 舟山市国民経済発展計画、2009年1月